

## 公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和 6 年 9 月 30 日						
		利用児童数			1人		回収数	
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		1					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	1						
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。				1	支援の様子を見たことが無いため、わからない。	支援の様子を見てもらえるような機会を設けていきます。	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。				1	支援の様子を見たことが無いため、わからない。	支援の様子を見てもらえるような機会を設けていきます。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1						
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。			1		聞いたことない。	利用者以外の児童と交流できる機会を設けることを検討しています。	
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1						
保護者への説明等	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレン特訓等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			1		聞いたことない。	参加型の研修会や情報提供の機会を設けることを検討しています。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	1						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			1		聞いたことない。	参加型の研修会や情報提供の機会を設けることを検討しています。	
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1						

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。				1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。				1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。				1		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ルシェル江端				公表日	令和6年9月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境 ・ 体 制 整 備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		適切である。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		適切である。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		フロアに柔らかいマットを敷き、転倒防止を図っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		毎日、清掃を行っている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて、個室対応を行っている。		
業務 改 善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		月に一度は、職員会議を行い目標設定や振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に一度、アンケートを行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議を行い、情報共有や意見交換を行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	行っていない。実施を検討している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	6		内部研修や外部研修を行っている。		
適切 な 支 援 の 提 供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		公表している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		・保護者のニーズを聞き取り、確認した上で個別支援計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・職員会議で議題に上げ、作成しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・定期的に共有し、日々のミーティング時にも支援内容の確認をしています。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		職員会議等で、確認している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・令和6年4月の法改正にて、順次新様式計画書に変更しています。新たな項目他、個々の必要性に合わせて項目や支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		スタッフ全員で、意見を出し合っています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎日、違うプログラムにしている・		

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		スタッフで意見を出し合い作成しており、個別活動と集団活動を組み合わせた上で支援を行っております。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日、朝礼で確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	毎日、行ってはいないため、毎日行っていきたい。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		業務日報、共有ノート、連絡帳、送迎表等を活用し、記録の徹底に努めています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・個別支援計画の更新時期に聞き取りを行い職員間で見直しを行っております。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・ケース会議等に、児発管や担当職員が参加し、意見交換や情報提供をさせて頂いております。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	児発管だけではなく、多くのスタッフが関わっていけるようにしていきたい。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか、また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	関係者会議を開き、情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2	関係者会議を開き、情報共有を行っている。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		2	積極的に研修に参加している。また、必要時には助言を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	必要に応じて活動機会を設け、子どもや保護者様のご意向等も確認した上で交流の場の提供に努めてまいります。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に日々の様子を伝えている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレン特・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		送迎時に情報提供を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		分かりやすい丁寧な説明ができるよう、職員の資質向上に努めている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		子どもの意思の尊重と最善の利益の優先考慮を踏まえた上で、意思形成支援・意思表明支援も合わせて行っている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		令和6年4月の法改正により、計画の様式も変更になっているため、ご領域を含めより丁寧な説明をするよう努めている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		個別での面談の他、令和6年4月の法改正後は、家族支援加算を通して、定期的に面談の機会を設けております。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	参加型の行事や交流機会を今後検討していく。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		適宜、対応している。申し入れや相談があつた場合はその日に対応できるように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		ホームページやSNSを定期的な更新している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	情勢を考慮し、衛生・感染対策等を徹底しつつ、地域活動の実施に向けて努めてまいります。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		事業所内では鍵のかかる場所に個人情報を保管している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		定期的に訓練をしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に必ず、確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	事前に聞き取りを行っている。契約時に、書類確認を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		定期的に訓練や研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		個別支援計画に記載して、周知を図っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットが発生した場合、早急に職員会議を開いている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		月に一度、職員研修を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		個別支援計画に記載して、了解を得ている。	

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ルシェル江端		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 9 月 1 日 ~ 令和 6 年 9 月 27 日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和 6 年 9 月 1 日 ~ 令和 6 年 9 月 27 日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 6 年 9 月 28 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個性に応じた支援をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々のニーズに合わせた療育の実施を軸に、日常動作訓練、創作的活動、機能訓練、集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。</li> <li>ソーシャルスキルや即時反応を高める指導を行っている。聴覚や集中力、自発性、表現力などへの働きかけを行っている。</li> </ul>	外部研修や内部研修を行い、療育の質を上げる。
2	季節毎のプログラムや行事がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとや月ごとにある、行事を取り入れている。</li> <li>旬の食べ物を食べる。</li> </ul>	利用者が興味を持つように工夫する。 体験ができるプログラムを行う。
3	手厚い支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が個々に関わりを持ち、療育に携わっている。個々の療育内容を職員間で共有し、スマートルステップを全員で分かち合うようにしている。</li> <li>日々の活動の様子を書面だけでなく、画像や動画にて見ていただけるよう意識して記録をしている。</li> </ul>	子育てサポート加算や家族支援加算を定期的に活用して保護者様への相談援助やフィードバックを大切にしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者以外の児童と一緒に活動する機会が少ない	利用者以外の児童と一緒に活動できる、場所に行くことが少ない。 人員が必要なため、機会を作るのが難しい。	一緒に活動する機会を設ける。 地域の児童センターに行って、交流する。
2	専門支援の定期化	言語聴覚士による支援のニーズが高いが、採用に至っていない。	専門人材の配置と「専門的支援実施加算」を検討していく
3	家族支援プログラムの機会が少ない	人員が必要なため、機会を作るのが難しい。 行っていることが浸透されていない	家族支援プログラムを行っていることを知らせる。 ビラなどを作り、配布する。